

## 旭川におけるアユの遡上環境の改善試験

アユは内水面漁業の重要魚種で、近年、漁獲量が低迷しています。また、県内には吉井川、旭川、高梁川といった大きな河川がありますが、夏の風物詩とも言えるアユ釣りで賑わう地域は限られています。今回、遡上環境の改善に向けた堰や魚道の簡易改修について紹介します。

旭川には河口から30km上流付近に大曾根堰があり（写真1）、これまでの調査で、この堰を境に上流側では天然アユの生息割合が減少することや、堰下流でのアユの滞留が観察されました（写真2）。このような状況では、カワウなどに捕食される可能性が高まるとともに、堰上流の生息個体が減少すると考えられます。一方、魚道の設置や大規模改修は多額の経費を要するため容易ではありません。そこで、今回、堰の管理者をはじめ関係者の理解を得て簡易な資材を用いた堰越流部の流速低減対策や、既設魚道の段差解消対策を実施しました。

この堰では、事前に魚類の遡上に関する問題点や改善策が整理されていたため、提示された対策案のうち手作業で実施可能な手法を選び、地元漁協と連携して作業を行いました。右岸の岸沿いや既設魚道では、流速を低減するための網袋を設置し、別の既設魚道では段差解消のため、木板等の設置を試行しました（写真3）。その後の調査では、実施箇所でアユの遡上が確認されるなど一定の効果が認められました（写真4）。一方、出水による資材の破損があり、簡易手法といえども耐久性の向上が課題として挙げられました。

アユの遡上環境の抜本的な改善には、魚道の形状変更や堰越流部の流況改善が必要です。将来、堰の大規模修繕の際には、遡上環境の改善に向けて関係者の協力が得られるよう、効果的な手法の検討を継続したいと思います。

（海面・内水面増殖研究室：山下）



写真1 大曾根堰の様子



写真3 遡上改善対策の実施状況



写真2 堰の下流に滞留するアユ

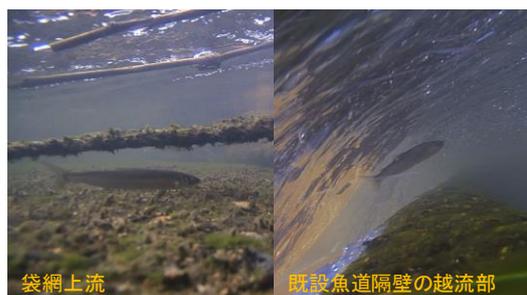


写真4 対策箇所のアユの遡上状況